

# 第30回全国建築板金競技大会

## 実 施 要 綱

平成20年2月9日（土）・10日（日）

静岡県富士宮市

『富士教育訓練センター』

全日本板金工業組合連合会  
社団法人日本建築板金協会

青 年 部

# 全国建築板金競技大会 実施要綱

## 1. 目 的

### □ 技能競技の部 (ZIC : Zenbanren Infancy Contest)

技能者が新しい時代の要請に応えていくためには、技能の基本に立脚し、創意・工夫を重ねていかねばならない。具体的には、建築板金業における生産力の基礎を成す<技能>の継承及び向上に資すること、国民の住生活向上に重要な役割を担う建築板金業の基本能力である<技能>の振興に対する決意と取り組みを内外に表明する。

### □ 建築技術の部 (NYAC : Nichibankyo Youth Architecture Contest)

建築板金業における良質工事の確保に必要な施工管理技術の向上に資することと共に、国民の住生活の向上に重要な役割を担う建築板金業の施工管理能力<責任施工能力>の向上に対する決意と取り組みを内外に表明し、建築の様式や工夫の変化に対応した施工技術の向上と有能技術者を建築板金業界に確保し、建設業界の振興発展に寄与する。

## 2. 実 行 機 関

□ 主 催 全日本板金工業組合連合会 青年部  
社団法人日本建築板金協会 青年部

□ 協 力 各ブロック青年部（北海道・東北・関東甲信越・中部・西部・四国・九州）

□ 後 援 厚生労働省・国土交通省・静岡県・富士宮市  
(予定) 職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会

## 3. 選 手 の 資 格

下記のいずれの条件を満たす者で、1組合あたり各部門2名まで参加可能。

1. 年齢が45才以下であること
2. 過去の大会における部門第1位入賞者でないこと
3. 所属組合の理事長による推薦があること

## 4. 開 催 期 日

平成20年2月9日（土）・10日（日）の2日間

## 5. 開催場所(宿泊場所)

〒418-0101

静岡県富士宮市根原492-8

『富士教育訓練センター』

TEL: 0544-52-0968 / Fax: 0544-52-1336

<http://www.fuji-kkc.ac.jp/>

※ 詳細につきましては、上記ウェブサイト等をご参照下さい。

## 6. 参加申込み等

- (1) 所定の参加申込み用紙で、全板連事務局へFAXでお申込みください。  
FAX: 03-3456-2781
- (2) 参加申込並びに参加費振込期限 …… 平成20年1月25日(金) 17時
  - ・上記期限以降の参加取消しの場合、参加費用は返金いたしかねますので予めご了承ください。
  - ・上記期限までに参加申込あるいは参加費の振込が確認できない場合、参加を受理できませんのでご了承ください。
- (3) 参加費
  - ①選手: 1名14,000円(両部門、支給材料費・宿泊食事代等を含む)
  - ②付添: 1名15,000円(宿泊食事代等を含む)
  - ※ 選手、付添ともに一泊三食(夕・朝・昼)。
- (4) 振込先

**りそな銀行 麻布支店(普) 966404 「全板連青年部」**  
(振込手数料はご負担ください)
- (5) 交通費の補助

参加選手の交通費については、全板連旅費規程に基づいて算出した交通費の1/3を選手派遣組合に対して補助いたします(付添は対象となりません。支払いは平成20年3月中旬の予定です)。

## 7. 競技課題及び持参工具

### □ 技能競技の部 (ZIC)

- 1) 競技課題は銅板による 『花器』 の製作とし、その詳細は別添の課題 (水色の冊子) による。
- 2) 道具類は課題に記載された「ZIC指定道具一覧」以外の使用はできませんのでご注意ください。  
※不明な点は、必ず事前に確認してください。

### □ 建築技術の部 (NYAC)

- 1) 設計図書を基本に 『屋根および板金工事』 に関する施工図と谷樋の大きさ選定計算書を作成することとし、その詳細は別添の課題 (桃色の冊子) による。
- 2) 道具類は課題に記載された「選手が持参するもの」等をご確認ください。

## 8. 作品の審査

- 1) 審査の基準及び方法 (別に定める)
- 2) 審査結果の発表

時 期：平成20年3月上旬 (予定)

方 法：両部門第10位までを全組合に書面 (FAX配信) で発表  
11位以降の順位については、該当する組合に対してのみ書面 (FAX配信) で発表

- 3) 審査員 (予定)

#### □ 技能競技の部 (ZIC)

大会会長・厚生労働省・静岡県・富士宮市  
職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会  
全日本板金工業組合連合会役員、同青年部役員

#### □ 建築技術の部 (NYAC)

大会会長・国土交通省・静岡県・富士宮市  
職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会  
社団法人日本建築板金協会役員、同青年部役員

## 9. 表 彰

上位入賞者は次のとおり表彰する。

### 1) 内 部 表 彰

両部門第1位から第10位までを入賞とする。

第1位から第5位までを全板連理事長／日板協会長・青年部長連名による賞状と記念品を、  
第6位から第10位までを青年部長名による賞状を授与する。

### 2) 外 部 表 彰 (予定)

#### □ 技能競技の部 (ZIC)

第1位 厚生労働大臣賞

第2位 厚生労働省 職業能力開発局長賞

第3位 静岡県知事賞

第4位 富士宮市長賞

第5位 職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会会長賞

#### □ 建築技術の部 (NYAC)

第1位 国土交通大臣賞

第2位 国土交通省 総合政策局長賞

第3位 静岡県知事賞

第4位 富士宮市長賞

第5位 職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会会長賞

### 3) 表彰式 (予定)

両部門第1位～第5位入賞者の外部表彰については全国大会時に、また両部門第1位～第5位の内部表彰については、青年部通常総会時にそれぞれ表彰予定。

## 10. 委員会の設置

大会の円滑なる運営を図り厳正公平な審査を期するため本部委員会、実行委員会、及び審査委員会を設置するものとする。

### 1) 本部委員会の構成と業務

本部委員会の構成は、全板連理事長、日板協会長、青年部担当理事、青年部長及び全板連理事  
長より委任された者をもって構成する。

委員長は担当理事がこれにあたり、建築板金競技大会の運營業務を統率する。

2) 実行委員会の構成

全板連・日板協青年部役員がこれにあたる。

3) 審査委員会の構成

I. 外部審査委員（予定）

□ 技能競技の部（ZIC）

厚生労働省

静岡県

富士宮市

職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会

□ 建築技術の部（NYAC）

国土交通省

静岡県

富士宮市

職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会

II. 内部審査委員

全板連 理事長

日板協 会長

青年部担当理事

全板連・日板協青年部役員

11. スケジュール (予定)

平成20年2月9日 (土) ~10日 (日) のスケジュールは下記のとおりです。

	時 刻	行 事 ・ 行 動	備 考
第 一 日	12:30	新富士駅集合	JR新富士駅
	12:40 ~	バスで移動	
	13:30 ~ 14:10	受付	富士教育訓練 センター
	14:20 ~ 15:20	開会式	
	15:20 ~ 15:50	記念撮影	
	15:50 ~ 17:50	競技上の説明など ・注意事項 ・持参道具点検	
	18:00 ~ 19:00	夕食	
第 二 日	7:00 ~ 7:45	朝食	富士教育訓練 センター
	7:50 ~ 8:00	選手点呼	
	8:00 ~ 12:30	競技	
	12:30 ~ 13:00	昼食	
	13:00 ~ 13:30	閉会式	
	14:00 ~ 15:00頃	<参加者> バスで移動 駅で解散	JR新富士駅
14:00 ~ 18:00	審 査 ・ 会 場 整 理	富士教育訓練 センター	

※スケジュール等が変更になることもありますので、あらかじめご了承下さい。

1 2. 参考資料：過去5年間の上位入賞者（敬称略）

【富士教育訓練センター】		技能競技の部（ZIC）	建築技術の部（NYAC）
第29回	第1位	山本新一（青森県）	和田真輝（京都府）
	第2位	佐々木剛（愛媛県）	西 一次（大阪府）
	第3位	津田 静（福井県）	森川享英（大阪府）
	第4位	一ノ関晃多（秋田県）	熊谷義秀（北海道）
	第5位	野田博史（広島県）	下村禎一（京都府）

【富士教育訓練センター】		技能競技の部（ZIC）	建築技術の部（NYAC）
第28回	第1位	谷口宜伸（広島県）	大西孝則（奈良県）
	第2位	大友謙次（秋田県）	和田真輝（京都府）
	第3位	津田 静（福井県）	森川享英（大阪府）
	第4位	中村 乙（青森県）	下村禎一（京都府）
	第5位	森永龍一（長崎県）	田中博文（山梨県）

【富士教育訓練センター】		技能競技の部（ZIC）	建築技術の部（NYAC）
第27回	第1位	宇佐美裕幸（秋田県）	中山直樹（島根県）
	第2位	加賀谷三広（秋田県）	大西孝則（奈良県）
	第3位	谷口宜伸（広島県）	小川元宏（群馬県）
	第4位	津田 静（福井県）	森川享英（大阪府）
	第5位	木地谷由幸（岩手県）	桶本真弘（京都府）

【富士教育訓練センター】		技能競技の部（ZIC）	建築技術の部（NYAC）
第26回	第1位	金井保栄（静岡県）	山崎一夫（島根県）
	第2位	西 一次（大阪府）	大西孝則（奈良県）
	第3位	松下賢士（大分県）	喜多一彰（愛知県）
	第4位	山本新一（青森県）	越智善朗（香川県）
	第5位	加賀谷三広（秋田県）	宮井雅弘（長野県）

【富士教育訓練センター】		技能競技の部（ZIC）	建築技術の部（NYAC）
第25回	第1位	佐藤正太郎（福島県）	宇野勝義（愛知県）
	第2位	金井保栄（静岡県）	大西孝則（奈良県）
	第3位	山本新一（青森県）	久保田健嗣（熊本県）
	第4位	田原悌二（北海道）	浜田英雄（香川県）
	第5位	小手森重孝（福島県）	田中裕也（高知県）



## 全国建築板金競技大会 出場選手および付添者の心得

全日本板金工業組合連合会 青年部

社団法人日本建築板金協会 青年部

「全国建築板金競技大会」に参加する選手並びに付添者の基本的な心得を次の通りと定める。

大会期間中、競技会場内・宿泊施設およびこれらに付随する諸施設内にあつては団体としての秩序や友愛をモットーとし、互いに協力し合つて、大会にふさわしい環境をつくるように心がけること。

また、大会の風紀を乱し、選手の本分に反しないように服装、言葉遣いなどについては十分留意し、かつ、品位を保ち、誇りある建築板金業界の青年部員として、自覚ある行動をとるようにも心がけること。

### 【注意する事項】

1. 集合や競技における時間についてはもちろんのこと、食事や入浴、消灯時間などの施設における規則の時間についても厳守すること。
2. 大会および宿泊施設の備品類やその他の公共物の破損、紛失等は避けること。  
万が一破損・紛失をした場合は、速やかに大会実行委員まで申し出ること。
3. 競技会場には、集合前や終了後または休憩時間中に立ち入らないこと。
4. 宿泊室および競技会場をはじめとする施設内は禁煙となっているので、タバコは決められた場所で喫煙し、火災の予防に努めること。
5. 期間中、他の団体や企業研修生、センター職員等には必ず声を出して挨拶をすること。
6. 競技大会開催期間中はできるだけ外出を避けること。
7. 「ルーム・キー」については各部屋のロッカーに挿してあるので入室後の管理は各自で行うこと。  
また、閉校式後の「ルーム・キー」については、元の場所（各部屋のロッカー）に戻しておくこと。  
競技大会期間中は、貴重品以外の荷物は部屋に置いたまま必ず施錠すること。
8. 浴室（大浴場／中浴場）の使用時間は、午後9時30分までと決められているので厳守すること。  
朝の入浴はできないので注意すること。
9. 食堂の利用時間についても厳守すること。
10. 消灯時間（午後11時00分）後は速やかに自室に戻ること。
11. 大会期間中は、大会実行委員の指示に従うこと。また、不明な点があれば、大会実行委員に申し出ること。

以上

## § NYACの理念に基づく今後の方向性 §

図面を描いた事が無い、今後も描く事は無いと思っている方は、現場や元請会社、あるいは御施主様との直接の打合せで、施工の納まりをフリーハンドで描いた事は無いですか。

きっとあるはずですが、もし今までなかったとしても今後、口頭で説明するのでは不十分な時が絶対に来るはずですが。そのような場合、基本ができていない人、すなわち施工図の描ける人と、施工図を描いた事も無い人の差というのは、はっきりと出てくるものです。線を引く事ひとつにおいても違って来るものです。

また、CADを使っている方、まだ使っていないがこれからの時代は手書きの図面ではなくCADで描けばいいとお考えの方、基本ができていないのに正確な図面が描けるのでしょうか。これも同様に、基本のしっかりできている人と、自己流で基本の無い人との違いは歴然としています。

“基本を身に付ける”ということにおいて、この競技大会はまさに絶好の機会であると言えます。

IT化された今の時代に、なぜ建築士の国家試験が未だに手書きで行われているのかを考えてみてください。機械に頼るのではなく、一人の人間の力で勝ち得るものが資格であり、そのように修得したからこそ、今後の仕事に役立つのではないのでしょうか。

建築士は図面を描くのが仕事で、私達は図面に応じた施工をするのが仕事である。などと言

っている時代はもう過去の話です。今、私達がすべき仕事は、もっと広い視野で観察し、他より先に見つけ出し、御客様に満足していただく答えを出す事だと思います。

図面を描くと言う事は、私達の業界では、営業能力・交渉能力・信頼性・将来性・自己表現など、いろいろな面においても自分自身のスキルアップになるはずですが。必要となった時に始めるのではなく、必要となった時には実行できなければ、今の厳しい時代には、取り残されてしまいます。

今の我々の業界においては、求められた事をする“実行力”だけでなく、自分が無いものを作り上げていく“行動力”が必要となっているのではないのでしょうか。

御客様（施主・元請業者）に、建築士の描いた図面ではなく、施工業者の描く図面であるからこそ価値があるのだと、解らせたいではないですか。

他の選手の作品を見て今後の仕事の上に役立たせるいい機会として、図面を描いた事が無い方こそ、この競技大会に参加する価値があるのではないのでしょうか。

この厳しい時代を乗り越えていく手段のひとつとして、競技大会に参加して、自分の視野を広げ、自分を磨き、新しい自分を創りましょう。

## § Z I Cを通じた競技大会への取り組みについて §

ともすれば「取付屋」とさえ酷評される昨今の我が業界にあって、青年部の若いエネルギーで取り組む物とは何でしょうか。時には、あすなる研究会でモチベーション向上を目指したり、あるいは、地元の業務に直結する責任施工保証であったりします。

さて、競技大会での製作はどうでしょうか？課題の練習作品が役立つわけでもなく、仕事が終わってからとか、休日を割いたりしてまで取り組む価値があるのか？そういった声をよく聞きます。また、普段の仕事ではめっきり減ったハンダ付けの作業を、わざわざ炭火を熾して行う必要があるのか、細かな作業工程も日常にフィードバックしないではないか？確かにそうです。

では、これらの作業は、もう、我々の業界に必要な無いのでしょうか？これに対する答えは、皆さんがお持ちのはずです。そうです、「ノー」です。

私たちが取り組んでいる競技大会の方向性は、基本を守る、という事です。ですから、治具を禁止し、ごくありきたりの道具のみで参加していただきます。ある方向では、治具を工夫し、効率よく製品を生産するのがビジネスだという見解もあります。利益を上げなければならぬ企業人として、当然の思考です。しかしながら、そのとき、作業に対する基本がわかっていたらどうか？なぜ不良品が出るのか？効率を上げるポイントは？精度を上げる要は？実はいずれも解答は競技大会の中にあります。しかも、自らが体で習得できる状態にあります。ハンダ付け一つとっても、コテの焼き具合や、どうやってハンダがなじんで銅板に溶着するのか、その結果仕上がりがど

うなるのか、など、基本として身につけておくべきことはたくさんあります。普段必要ない技術だ、という意見もあります。いいえ。普段しないのであれば、なおさら取り組むいい機会ではないでしょうか？

我々は、たった一枚の銅板を加工して様々な作品を作る事が出来るのです。これは、他の業界には絶対にまねの出来ない、私たちだけの誇りなのです。その誇りを守る事が出来るのもやはり、我々しかいません。私どもの競技大会は、決して生産効率を競うのではありません。自分の腕を磨き遺憾なく発揮し、先人たちの膨大なノウハウを受け継ぎ伝える、という、ある意味業界にとって欠く事の出来ない位置づけであるのです。

つまり、競技大会とは、我が業界の最高の技能を競い合い、磨きあう、すばらしい場所であるのです。かといって、腕に自信がない、と躊躇する必要は全くありません。前述したように、仲間同士が“競い合い”“磨き合う”機会なのです。果敢に挑戦する事も、決して無駄ではありません。むしろ、そうすることによって、自分のスキルが向上し、自信がつき、経験は財産となり実を結ぶ事でしょう。私たち青年部員は、くまなく競技大会に参加する権利があり、かつ、技能の継承を行う義務があります。それらが、業界の原動力であり、若いエネルギーではないでしょうか。

ところで、今、競技大会は富士教育訓練センターという会場で、設営・運営・採点のすべてにわたって、役員のみならず、各ブロックからの設営スタッフの協力を得て、まさに手作りの大会を呈しています。実は、舞台裏は、想像以上に重労働なのです。大会前日から会場入りし

て、設営スタッフ共々力の限り動きます。選手の皆さんを迎えるために、一生懸命準備をします。そうして出来た舞台に臨んでいただく参加選手たちもまた、その舞台の一員であるといえます。我々が、我々の手で、我々の過去と未来のために開催している大会。あるいは、青年部という組織の強化の一端を担って取り組んでいる事業。参加選手も、設営スタッフも、実に夢のある、やりがいのある役割だとは思いませんか。どちらも、自分にとって、青年部にとって、共に貴重な財産になる事は間違いのないところですよ。

筆者自らが体験したからこそ、皆さんにお伝えしたいのです。身につけた基本は年月を経て

も忘れませんし、貴重な経験は血となり骨となります。何十年も仕事をしていく中で、ほんのわずかの日数です。この「与えられたカリキュラムをこなす」という行為も実は、“業務の計画的実行能力”という側面での実用性につながっているといえます。

この厳しい時代に生きていくためには、業界単位でしなければいけない事と同時に、個々で取り組むべき姿勢があると思います。攻撃は最大の防御である、との言葉にあるように、果敢に挑戦し、大いに前進していこうではありませんか。競技大会をそのための切り口の一つとして、青年部ならではの取り組みをしていこうではないですか。

©2004-2007 全板連・日板協青年部